

平成29年12月6日

国内最大級科学イベントで2年連続3回目の「サイエンスアゴラ賞」受賞！ ふくしまサイエンスぷらっとフォーム spff

独立行政法人科学技術振興機構(JST)が主催する国内最大の科学イベント「サイエンスアゴラ 2017」が11月24日～26日に台場テレコムセンタービル(東京都)で開催されました。今年度のテーマは「越境する」。福島大学が中心となって福島県内の研究機関・社会教育施設・企業・学校・NPO・各種団体等と連携して科学コミュニケーション活動事業に取り組む「ふくしまサイエンスぷらっとフォーム spff」が出展し、最高賞のサイエンスアゴラ賞を受賞しました。2011年に賞が制定されてから3度目の受賞となりました。

1.サイエンスアゴラ（※科学の広場の意味）とは？

独立行政法人科学技術振興機構(JST)の主催で2006年に「広い意味でのサイエンスの専門家はもちろん、あらゆる分野の専門家、そして大人から子どもまで、多様な人々が一堂に会してサイエンスコミュニケーション活動を展開する場であり、それぞれの立場を超えてコミュニケーションを深める」ことを目的にスタートしました。東京・お台場にある日本科学未来館をメイン会場に、全国から200件の様々な個人・団体が参加する日本最大の科学イベントです。

今年度のビジョンは「科学とくらし ともに語り紡ぐ未来」、

テーマは「越境する」。

参照：<http://www.jst.go.jp/csc/scienceagora/>

2.福島大学 ふくしまサイエンスぷらっとフォーム (spff) が出展

タイトル：復興期における被災地の課題と科学コミュニケーション

出展協力：福島大学 (spff 事務局, 環境放射能研究所)

福島県立安達高等学校自然科学部生徒 (2年生 4名)

京都教育大学附属京都小中学校・教諭・生徒 (8年生(中2相当)3名)

福島県環境創造センター・福島県農業総合センター

ムシテックワールド・郡山市ふれあい科学館

○テーマ「越境」「○○×○○」にちなんで・・・

(企画1)放射線を学ぶ若者「県内×県外」

昨年から放射線や復興などについて学び始めた【県内】福島県立安達高校生と、学校のプログラムで放射線や科学リテラシーを学んでいる【県外】京都教育大

学附属京都小中学校の中学生が、「福島の今」をめぐって議論しました。それをもとに、ブースで立場の違いや今後の目指すべき方向性について来場者を巻き込んで立場を超えて対話を行いました。

(企画2)福島県内の研究機関、とりわけ原発事故と放射性物資による汚染関連の調査研究に取り組む3つの機関の取り組みと、市民への普及活動をめぐる越境「研究者×地域住民」に係る課題について発表を行いました。

○「県内×県外」「研究者×地域住民」の「越境」について、来場者との対話そのものをプレゼンテーションしたことが高く評価されました。

3. 快挙！サイエンスアゴラ3度目の受賞

福島県内ではほとんど知られていませんが「ふくしまサイエンスぷらっとフォーム spff」はこれまで、「第1回サイエンスアゴラ賞」(最高賞)(2011年)および「JST賞」(最高賞)(2016年)に引き続き、3度の受賞となりました。

4. 出展の様子



県内外の中高生らによる対話の様子



出展協力者



京都の中学生×福島県の高校生



閉会式「サイエンスアゴラ賞」授賞

(お問い合わせ先)

総合教育研究センター教授 岡田努

電話：024-548-5242

メールアドレス：h006@ipc.fukushima-u.ac.jp